

インフルエンザワクチン副作用論2009

(稲松委員提出資料)

インフルエンザワクチン副作用論 2009

平成12年・新型インフルエンザ対策委員会資料+平成21年追加



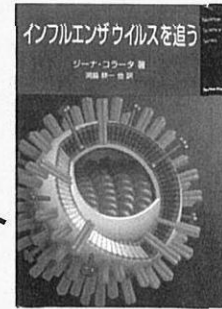
目次

インフルエンザワクチンの有害反応を巡って

平成12年・新型インフルエンザ対策委員会資料+平成21年追加

- フォトディスク豚インフルエンザ事件の顛末(1976)
 - 全米国民ワクチン接種計画とギランバレー症候群
- 国内調査データ
 - 調査方法—調査精度
 - 調査対象:小児、成人、老人
調査ワクチン、ロット
- 添加物
 - チメロサル
 - ゼラチン
 - 卵成分
- 有害反応の因果関係?、紛れ込み対策

インフルエンザワクチンと ギランバレー症候群(1)



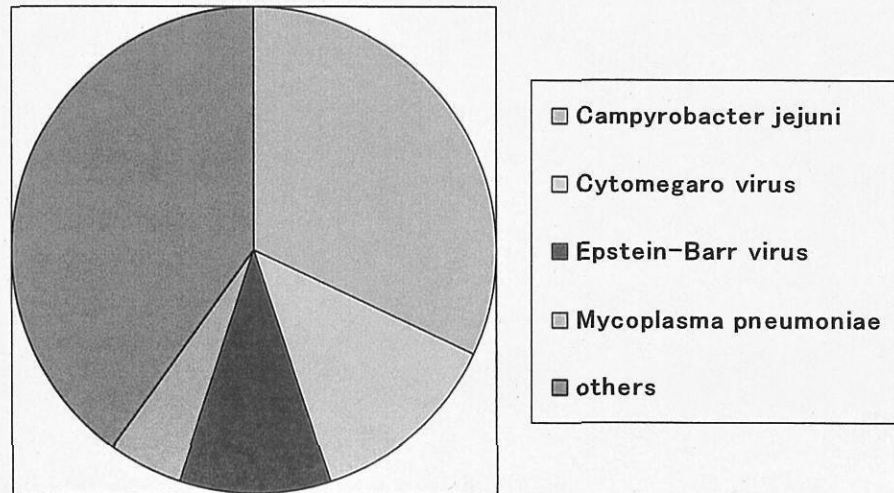
- 1976:米国民へのワクチン接種計画スタート
- CBSイブニングニュース:批判意見を紹介
 - 次々と批判者:ラルフ・ネーダー...
- 保険会社は製造会社の損害賠償保険を引き受けず
- 統計上の確率論議と個人がそれをどう感じるかは別問題
- ワクチンに関する損害賠償は、国が引き受ける法案成立
 - 在郷軍人病事件に引きずられた政治的判断
- ワクチン接種後の突然死にマスコミ殺到、報道合戦始まる
- ギランバレー症候群(GBS)の症例あり

インフルエンザワクチンと ギランバレー症候群(2)



- ワクチン接種後GBS発症例あり。
- 文献的には因果関係否定的であるが、報告Drは因果関係を誤解
- CDCは疫学的確認のため調査
 - ワクチン+ ⇒ GBSと診断されやすい
 - ワクチン- ⇒ nonGBSの診断を模索
 - ⇒ ワクチン接種例にギランバレー症候群疑い例が多数報告される
- 報道加熱 ⇒ ワクチン接種計画中止
- 訴訟地獄 : 3917件、35億ドル
- 後に、因果関係否定
 - 米軍で170万人に2回接種
 - ワクチン接種前のGBS発症頻度からは17名の発症が予測
 - ⇒ 実際は13名、GB増加なし
 - オランダは150万人に接種し、GBSの増加なし

Guillain-Barre症候群の引き金



有害反応の原因

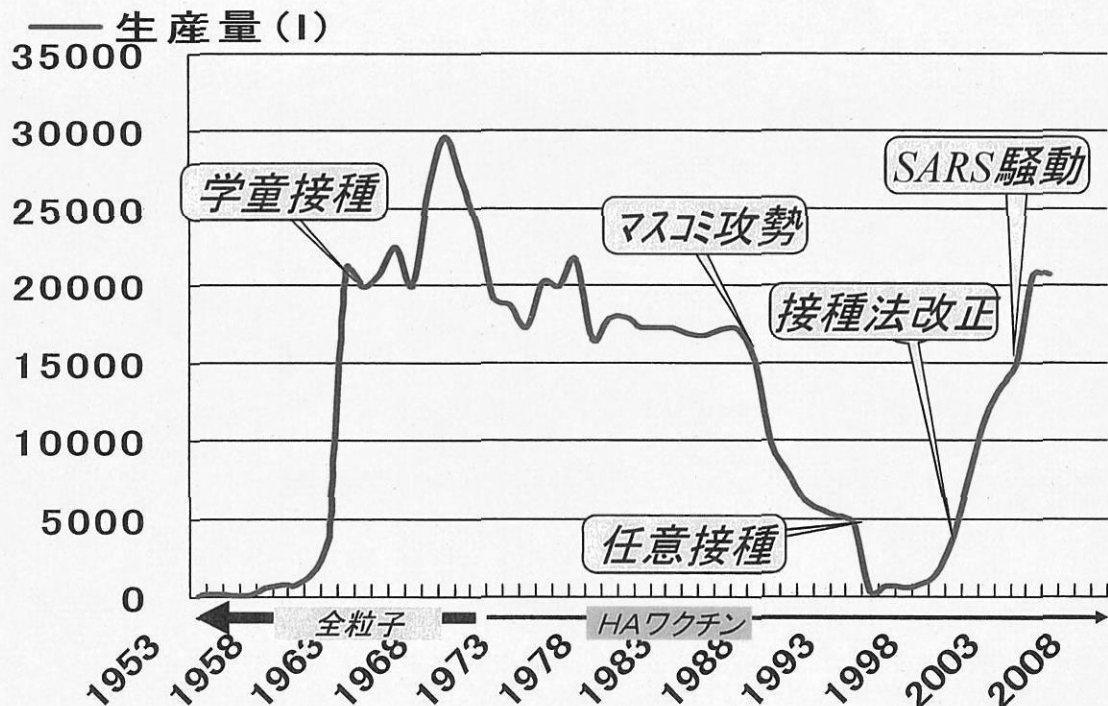
- ワクチン抗原
- ワクチン製剤添加物など
 - 卵蛋白など
 - 安定化剤、防腐剤:ゼラチン、チメロサルなど
- ワクチンの保存方法
 - 製剤の変更、有効期限
 - 冷蔵庫...
- 接種方法の誤り
 - 接種部位、神経損傷
 - 注射器使い回し
- 注射行為に対する反応
 - 迷走神経反射
 - 過呼吸症候群

調査方法による頻度差

	特養利用者 看護婦による 直後の観察		外来高齢者 医師による 4週後の聞き取り	
何らかの副作用	56/287	19.5%	106/775	13.7%
局所反応	53/287	18.5%	38/761	4.7%
発熱 $\geq 37^{\circ}\text{C}$	13/287	4.5%	11/761	1.4%
その他*	7/287	2.4%	83/761	10.9%

*殆んどは軽症例

インフルエンザワクチン生産量



ワクチン接種3日以内に、各種疾患で死亡する確率 ワクチン非接種年の死亡統計から推定(平成11年)

- 年間死亡数 982031人
- 1日死亡数 2690人
- ワクチン接種日に死亡 6.63人
(接種率30%として)

年齢	人口	死亡数	死亡数/日	接種率30%として接種3日以内に死亡:死亡数×0.3×3/365
0～4	5,817,000	5,567	15.3	
5～19	20,154,300	4,351	11.9	
20～39	34,487,400	22,061	60.4	
40～59	36,120,400	114,876	317.3	
60～79	25,211,700	404,985	1109.6	2.7
80～	4,925,600	429,326	1176.2	3.0

ワクチン接種3日以内に、 各種疾患で死亡する人数(平成11年)

死亡原因別死亡数			
死因	／年	／日	接種率30%として 接種3日以内に死亡
悪性新生物	290556	796	2.19
心疾患	151079	414	1.02
脳血管疾患	138989	381	0.93
肺炎	93994	258	0.72
不慮の事故	40079	110	0.27
自殺	31413	86	0.21
.....			

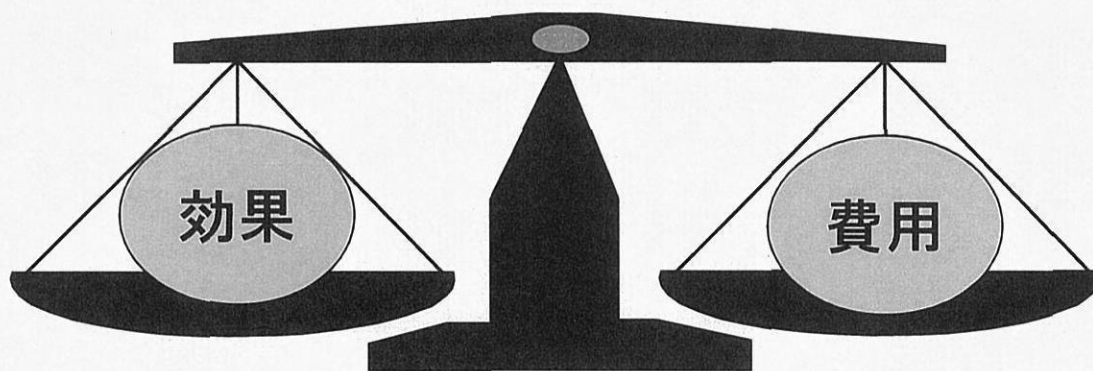
有害反応対策

- 製剤の改善
 - 防腐剤
 - ゼラチン
- 問診による各種疾患の予兆の把握
有害反応のリスク回避
- ワクチンの安全性、紛れ込み死亡に対する、国民的理解
- 委員会による因果関係判定→補償

紛れ込みの検証

- 高齢者では各種疾患による死亡例多し
 - 小児ワクチンとの違い
- 疫学的検証は可能
 - ワクチン接種期間に特定疾患の集積はないか
 - 1998年との比較で特定疾患は増えていないか
 - 在宅酸素例、透析例でワクチンの有無と死亡の関係を検討
- 個々の例について完全に否定するのは困難

ワクチン戦略の適応



疾病の重篤度
疾病の社会的影響



費用

ワクチンの予防効果



安全性

THE END



ご静聴ありがとうございました。